

平成 18 年度診療報酬改定は理学療法士にとって大変厳しい内容となった。特に看過できないのは、国家試験による資格者ではなく、ある「講習会」受講者にも保険点数の算定を認める、というものである。消費者(患者)のニーズにこたえるという名分が掲げられているが、理学療法サービスの質的保証はいかに担保されるのであろうか? 目先のニーズにこたえようとするのが、将来的にはかえって患者へのサービス内容を低下させる懸念と不安が消えないのである。この点については十分な関心をもって対応する必要がある。

さて、本特集は、上記の「理学療法効果」にかかわる意味でも重要な「脳卒中治療ガイドライン 2004」に関するものである。EBM が重要であるとの認識はいまや共通のものとなったが、その具体的展開は十分とはいえないのではないだろうか。理学療法士のかかわる対象の中でも大きな領域である「脳卒中」についてガイドラインが示されたことは、議論のスタートが可能となったという点できわめて重要である。まず、正門論文ではガイドライン策定に当たっての作業過程と概要について述べていただき、エビデンスが乏しい分野こそリハビリテーション医学がなすべき研究領域であるとの指摘をされた。さらに本邦のガイドラインでは医師・統計学者のみが作成にかかわっているの、今後は多くの医療関連職種への参加を求めている。大塚論文では急性期からの理学療法におけるガイドラインとの関係を描く。脳卒中の病型ごとに適切なリスク管理を行い、可能な限り早期に運動の再学習に取り組むべきであるとの指摘がなされている。三宮論文では、回復期、維持期における立場から、急性期からの連携とチームワークの重要性を論じている。寺西論文では、歩行障害に対する理学療法に関して、ガイドラインにおける推奨項目について詳細なレビューを行い、多角的に検討されている。下肢装具に関するエビデンスの報告がほとんどないという指摘は、臨床上その有用性が明らかだけに「驚くべき」ことであつた。弓岡論文では上肢機能障害に対して、ガイドライン推奨の方法を適用した 4 症例の分析検討が論じられており、興味深い報告となっている。

入門講座の伊藤論文「診療記録の基本」では、まさに基本的な診療記録についての留意点が述べられている。いったん国家試験に合格して職場で日常臨床に携わるようになると、記録の書き方についてはなかなか指導を受けられないのが現状であろう。この論文の中で指摘されている、「DO」は、小生も新人のころ「行う」という意味だと誤解していたことを思い出した。このようなことは記録が医療関係者のために書かれているときには問題となりにくい、利用者・患者のために書いていると思えばおのずと変化するとの指摘は興味深い。

今号から開始した講座は「運動学の定説を問う」の第一弾である。いささか挑戦的なシリーズ名に恥じない、高橋論文である。筆者を含め多くの理学療法士が「爪先立ちの下腿三頭筋」は第 2 のてことして認識していたのではないだろうか(それとも筆者だけ?)。この思い込みを見事に打ち砕く説得力のある必読の論文であるといえよう。

「花に嵐」のたとえが適切かどうか、今年の春は診療報酬改定の嵐が吹き荒れそうである。この嵐に耐えるために必要なのは、結局のところ患者に対して最も適切で良心的なサービスを提供し続けることだと信じたい。

(網本 和)

理学療法ジャーナル

(第 40 巻 第 4 号)

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

2006 年 4 月 15 日発行(毎月 1 回 15 日発行)

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

電話 本誌編集室直通(03)3817-5703

定価 1,785 円(本体 1,700 円+税 5%)

(担当: 松田・山崎)

販売部直通(03)3817-5659・5660

広告室直通(03)3817-5696

〔2006 年年ぎめ予約購読料 22,920 円〕
(全 13 号、配送料弊社負担)

ファクシミリ(03)3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

E-mail: ptj@igaku-shoin. co. jp

印刷所 三 報 社 印 刷(株) ☎(03)3637-0005

Web http://www. igaku-shoin. co. jp/mag/ptj/

広告申込所 (株)医薬広告社 ☎(03)3814-1971

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2006, Printed in Japan

・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有しています。

・ JICLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。

●編集顧問●

安 藤 徳 彦
上 田 敏
大 川 弥 生
五 味 重 春
福 屋 靖 子
横 山 巖

(五十音順、以下同じ)

●編集委員●

網 本 和
内 山 靖
高 橋 哲 也
高 橋 正 明
鶴 見 隆 正
永 富 史 子
奈 良 勲
吉 尾 雅 春

●編集同人●

伊 藤 俊 一
伊 橋 光 二
今 川 忠 男
上 田 陽 之
大 橋 ゆかり
大 峯 三 郎
岡 西 哲 夫
岡 本 慎 哉
金 谷 さとみ
木 山 喬 博
日 下 隆 一
工 藤 俊 輔
酒 井 桂 太
佐々木 伸 一
佐 藤 秀 一
澤 田 三津子
高 口 光 子
富 樫 誠 二
富 田 昌 夫
長 澤 弘
仲 貴 子
中 村 春 基
橋 元 隆
濱 出 茂 治
備 酒 伸 彦
福 井 勉
福 田 恵美子
二 木 淑 子
星 文 彦
前 田 哲 男
牧 田 光 代
丸 田 和 夫
丸 山 仁 司
宮 本 省 三
諸 橋 勇